

新潟医療センターニュース

第46号

発行 新潟県厚生連労働組合新潟支部
発行責任者 仁 蕪 澤

健康を考える憩いの場



様々な地域保健講座・職員研修会が開かれる

新緑の眩しいこの季節になると、院内では様々な学習会が開催されます。地域の皆さんを対象にした保健講座や職員向けの研修会を幾つかご紹介いたします。

たくさんの方々に集まって頂きました！

六月十五日(土)当院講堂にて地域保健講座が開催され、五十六名が参加されました。今回のテーマは当院歯科口腔外科部長、道見登先生による「知って安心！身近な病気と歯科治療」。

「不整脈、心臓弁膜症、糖尿病、肺炎、骨粗しょう症の治療中に歯科治療をする際の注意点や薬と歯科の関係、歯科治療でできる病気の予防方法などクイズや画像を交えて、病気と上手に付き合うコツを勉強しました。口腔ケア用品のお試しコーナーでは「歯周病予防」「口内



歓迎の挨拶・田中病院長

炎予防」「口腔乾燥予防」に役立つデンタルリンスや口腔保湿剤を紹介。参加者の皆さんが初めて体験する口腔ケア用品も多かったようです。

口腔の健康と全身の健康は密接につながっています。豊かな生活のためにどんどん歯科を活用して欲しいという道見先生と参加者の距離が近く、アットホームな雰囲気が印象的なセミナーでした。

地域保健講座担当責任者

貝瀬 直美

毎年繰り返し開催される循環器セミナー

新潟医療センターでは、全職員を対象に毎年循環器セミナーを行っています。六月から始まり七月三十一日まで九回にわたって実施しています。

循環器セミナーとは、色々あ



セミナー講師・大塚循環器内科部長

る心臓の病気とその治療を学べる研修会です。毎年繰り返し開催するセミナーを行っている理由としては、新たな職員が入職してくることで、医療も日々進んでいるため新しい治療法が取り入れられているからです。循環器セミナーというだけあって、循環器内科の頼もしい先生方が講師となつて教えてくださいます。ただ本に書いてあることを伝えるのではなく、実際の治療の現場でのデータを踏まえて講義があるので、より実践的な内容となっております。看護職に限らず、医師、リハビリ、薬剤科、栄養科、検査科等の参加もあり、部署や職種に関係なく参加しています。色々な職種で知識を深めることで、日頃のチーム医療につながっているのだと思います。

循環器内科病棟

看護師長 落合 清美

循環器セミナーを受講して

四月に新潟医療センターへ配属されて早三か月が過ぎ、学生以来初めての生理検査配属でも左も分らず日々奮闘しています。特に心臓カテテル検査に関しては今まで触れたこともなく、周りのスタッフには迷惑をかけ通しです。そんな中で当院医師による「循環器セミナー」の開催を知り、難しくても少しでも学べるのであればと思い受講しました。

セミナーは毎年新人に向けて行われるもののように内容も分かりやすく、普段は恥ずかしくて聞けないような初歩的なことまで実際の症例の解説や写真、データなども交えて丁寧にとまっています。関係スタッフ向けの難しい内容だと思っていた私にとっては嬉しい誤算です。まだまだ講義は続きますが、受講するのが楽しみです。

生理検査は奥の深い分野で、カテテルに関してだけでもペースメーカーや疾患など知らなければならぬことはまだまだ山のようにありますが、一歩ずつでも確実に成長していきたいと思います。

生理機能検査 山田 将也

病院探索

NHK、その他で 取り上げられる ロボットスーツの その後に注目

ロボットスーツHALは、装着者の皮膚表面に張り付けたセンサーで筋肉のわずかな動きを感知して人間の動きをサポートするサイボーグ型自立支援ロボットです。「HALが人間を歩かせてくれるのですか?」と聞かれる事も多いのですが、あ



くまでも人間に残された少しの力をHALが大きくし、動作を補助してくれるものです。

当院でのHALの試験運用開始から十か月が経過しました。雑誌やテレビに取り上げられる回数も増え、皆さんがその様子を目にする機会も増えたのでは

新人看護師

初めての夜勤



先輩看護師に魅せられて

みなさんはじめまして、私はこの春に厚生連中央看護専門学校を卒業し、春からB棟2階の循環器内科病棟に勤務している、看護師の白井です。

早いもので、勤務してからあつという間に三か月近くが



過ぎようとしています。五月二十三日に初の夜勤を経験しました。この三か月間、病棟の先輩方の指導のもと、患者さんの看護を行っています。処置や業務などわからないことばかりです。

日々、先輩の仕事ぶりを見てみると、知識や仕事の速さ、丁寧さや技術力、判断力の高さなど、凄いなと思います。どうしたらそんな風にできるのかと尊敬することばかりです。

そんな先輩方の姿を見ながら、私もいつか、知識や根拠に基づいた看護がしたいと思えました。そして、患者さんに丁寧で安心感を与えられる看護が提供できるよう努力していこうと思っています。

B2病棟看護師 白井 直樹

ないでしようか。これまで入院・外来を合わせて二十三名の方がHALを使用した立ち上がりや歩行などの練習を行いました。中にはHALの動きになじめない方もいらつしやいましたが、多くの方には「歩く時に足が出やすくなった」「姿勢が良くなった」「麻痺している足が踏ん張りやすくなった」と喜ばれています。今後、HALが皆さんの身近になり、リハビリを受ける時の選択肢の一つになっていけば、と思っております。

リハビリテーション科

理学療法士 平松 一枝



「ありがとう」の言葉に支えられて

四月から新潟医療センターに勤めて二か月が経ちました。はじめは新しいことだらけで一日の業務に慣れることに精一杯でした。四月からの先輩看護師の指導下に働くプリセプター期間が終わりました。そして、一人で患者さんを受け持たせてもらうようになり、自分主体で看護が行える楽しさにプラスし

職場紹介

健診センター

チームワークを大切に!

健診センターは医師二名、保健師一名、看護師四名、事務員七名で人間ドック、脳ドック、協会健診、企業健診を行っています。

婦人科健診も含め、ほとんどの検査を健診センター内で出来るようになり受診者には大変喜ばれています。

その他に暑さ寒さにも負けず、健診道具一式を車に乗せて、早朝から巡回健診に回っています。スタッフも四月から新しく五

名入れ変わり、雰囲気も少し変わりましたが、みんな仲良く、休憩時間には笑い声が響くこともあります。そしてスタッフ一同、声を掛



け合い、協力して健診業務を行っています。

健診は、早期に病気や癌が見つかります。是非皆さんドックを受けましょう。ご希望の方がいらつしやいましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。(健診センター 宮沢 咲子)

て、責任の重さや看護の難しさを痛感しています。五月からはじまった夜勤は少ない人数でたくさん患者さんを見るため仕事回りきれなかったりしますが、先輩方にフォローしてもらいながら少しずつ仕事を覚えていきます。また、その日の看護業務をこなすことに追われてしまい患者さんと関わる時間がもたず、自分のなりたかった看護師像からかけ離れているという葛藤があります。そんな中でも患者さんからの「ありがとう」の言葉に何度も助けられました。

C4病棟看護師 難波 理穂

編集後記

毎日、暑い日が続きますね。海開きも近々開催されますし、これからが夏本番です。熱中症などには気をつけて、暑い夏を乗り切っていきたいものです。(金子)

編集委員 河村 奈奈 安澤 美子 金子 絵理奈 佐野 恵太 山崎 香織 野上 弥生 小柳 良明 阿部 真由美 吉川 博子 荻澤 仁 大橋 利弘